

～ 雪腐病の早期防除について ～

昨年は過去10年間で最も早い根雪始め（10月30日）となり、雪腐病の防除ができなくなったことと、積雪期間の長かったことが、越冬後の被害を助長しました。

名寄地区では、無人ヘリによる防除が普及していますが、スプレーヤーやビークル等の地上散布の場合、残効性の長い薬剤（「フロンサイド」等）を使用することができるため、例年より早めに防除を行うことも可能です。

○ 早期防除を実施する場合の薬剤について（散布可能日：10月15日以降）

薬剤の防除効果の持続性は、散布から根雪始めまでの積算降水量の影響を大きく受けます。このことから、下表で積算降水量が多い薬剤では、早めに防除を行った場合でも、効果の低減が小さいと考えられます。

早期防除を実施する場合は、残効の長い薬剤を使用するとともに、展着剤を加用して、付着性を向上するようにして下さい。

なお、名寄地区では例年、褐色小粒菌核病の発生が多い傾向にありますが、排水不良や湿潤な状態が長く続くと、褐色雪腐病を併発して株全体が枯死しやすくなります。防除の際は、褐色雪腐病に対して効果のある薬剤（「ランマンフロアブル」等）を併用するようにしましょう。

表 雪腐病に対する薬剤の残効性評価について（地上散布の場合。登録はH29.10.12現在）

薬剤名	効果※1					希釈倍率	回数※2	効果低減・再散布の目安
	褐小	褐色	黒小	紅色	大粒			
フロンサイドSC	●		●	●	●	1,000倍	2回	散布～根雪始までの積算降水量150mm
シルバキュアフロアブル	●		●			1,000～2,000倍	1回	散布～根雪始までの積算降水量85mm
ランマンフロアブル		●				1,000倍	3回	散布～根雪始までの積算降水量150mm

※1 褐小：褐色小粒菌核病、褐色：褐色雪腐病、黒小：黒色小粒菌核病、紅色：紅色雪腐病、大粒：大粒菌核病

※2 回数は根雪前までの使用回数です

●日没が早まっていますので、暗くなったら早めにライト点灯を行なうようにしましょう。また、ほ場間を移動する際は、回転灯や反射板を装着し、他の車両や歩行者からの視認性を確保しましょう。